

## 若手研究者コラムリレー

### 神藤 隆志 (じんどう たかし)



#### プロフィール

筑波大学体育系体育センター 特任助教  
日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域: 発育発達

愛知県出身

2012年 筑波大学体育専門学群 卒業

2015年 日本学術振興会特別研究員DC2

タイ王国国立シーナカリンウィロート大学留学

2016年 筑波大学大学院人間総合科学研究科修了、博士(体育科学)

2016~2021年 公益財団法人明治安田厚生事業団体力医学研究所研究員

2021年~

客員研究員

2021年4月より現職



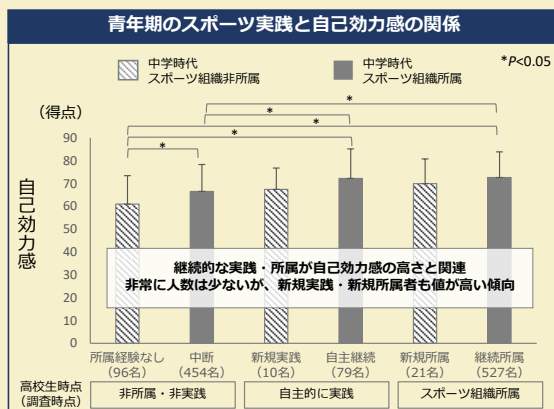
E-mail: jindo.takashi.ge@u.tsukuba.ac.jp

#### わたしの研究

##### 運動・スポーツ習慣の獲得・ 保持・中断予防に向けて

私の研究では、運動・スポーツ習慣の獲得・保持や中断予防に役立つ知見の発信を目指しています。

例えば、青年期の運動・スポーツ習慣をみると、運動部等のスポーツ組織への所属のみならず、自主的に継続している生徒もストレス対処と関係する心理指標(自己効力感)が良好であることを報告しています(下図と論文)。



自己効力感を育むという観点からは、中学までスポーツ組織に所属していたのであれば、高校では必ずしも運動部やスポーツクラブへの所属にこだわる必要はないのかもしれませんが。

今後も多様な運動・スポーツの在り方を見出していきたいです。

必読

わたしの運身の論文

神藤ら, 男子高校生における継続的な運動・スポーツ活動と特性的自己効力感の関連性: スポーツクラブへの所属に着目して. 発育発達研究, 78, 35-42, 2018.

#### (なんでも帳)

私の出身領域は健康増進学で、これまでに高齢期の健康づくり運動、青年期の運動部活動、勤労者の職場運動やオフィス環境改善、テニスと健康など幅広いテーマに取り組んできました。

現職では、テニスコーチング論を専門領域としています。「健康増進学⇔テニス⇔コーチング学」と行き来することで、新しい切り口やアイデアを見つけられたらと考えています。

過去のスポーツ経験が乏しいと、新たなスポーツ習慣獲得は難しいと言われていました。その理由として「技能習得の難しさ」が挙げられています。テニスにおいても、ショットやラリーの技能は楽しさと関係します。技能習得を支援し、楽しさやプレー満足度、さらには健康効果を高める方法を検討しています。

若手の会・学会の皆様、日々の研究や仕事について、ぜひお話しさせてください！



筑波大学体芸テニスコート  
研究&実践のフィールド

#### 日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました！ → メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

[taikugakkaiwakate@gmail.com](mailto:taikugakkaiwakate@gmail.com)

